

公立大学法人宮崎公立大学
平成29年度業務実績に関する評価結果

平成30年8月

宮崎市公立大学法人評価委員会

目次

1	事業年度ごとの業務実績の評価方法	…	1
2	大項目別評価	…	2
1	第2 教育研究等の質の向上	…	2
2	第3 地域貢献、国際化	…	4
3	第4 業務運営の改善及び効率化	…	5
4	第5 財務内容の改善	…	6
5	第6 自己点検・評価及び情報公開・提供	…	7
6	第7 その他業務運営	…	8
3	平成29年度業務実績評価に係る項目別評価結果総括表	…	9
4	全体評価	…	10

1 事業年度ごとの業務実績の評価方法

宮崎市公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」）は、公立大学法人（以下「公立大」）が作成した業務実績報告書に基づき、公立大の意見を聴取し、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。

(1) 小項目別評価（基礎資料）

年度計画の項目ごとに、事業の進捗状況・実績について以下の4段階により評価を行う。この際、公立大の自己評価と判断が異なった場合、また、特筆すべき優れた取組や改善・取組の強化を期待する内容等がある場合には、「評価委員コメント」欄に記載する。

Ⅳ	年度計画を上回って実施している
Ⅲ	年度計画を順調に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施できていない
Ⅰ	年度計画を実施していない

(2) 大項目別評価

(1)の結果を基礎とし、年度計画の大項目

- (①教育研究等の質の向上 ②地域貢献、国際化 ③業務運営の改善及び効率化
④財務内容の改善 ⑤自己点検・評価及び情報公開・提供 ⑥その他業務運営)
別に、以下の5段階により評価を行う。

S	(秀) 特筆すべき進行状況にある(特に認める場合)
A	(優) 計画どおり(すべてⅢ～Ⅳ)
B	(良) おおむね計画どおり(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	(可) やや遅れている(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	(不可) 重大な改善事項がある(特に認める場合)

(3) 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、公立大の業務全体の実績評価について、記述式により、年度計画の取り組みを総括する。

また、地域の高等教育機関として更に発展するために、大学の特色ある取り組みやさまざまな工夫について積極的に評価し、広く公表する。

なお、必要に応じて組織や業務の課題や改善点等も記述する。

2 大項目別評価

第2 教育研究等の質の向上

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (優) 計画どおり

イ 判断理由

項目別の評価を集計した結果、項目数30に対し、その全てにおいて、「年度計画を上回って実施している(Ⅳ評価)」又は「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 項目別評価の集計結果 (No.1~30)

項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
30	3	27	0	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき優れた事項

【No. 2：集中講義による再履修制度や正課外の語学支援の運用等】

- ・結果は目標通りであっても、再履修講義により単位取得者が増え、学習意欲の継続や留年抑止対策として効果があることを評価した。

【No. 7：FD研修会の継続実施と充実】

- ・「可視化」に関する有効な研修が実施されており、次年度における取組も明示されている。

【No. 13：県内外に向けた入試情報等の広報の充実】

- ・広報活動や情報発信について、積極的に取り組んでおり、成果も上がっている。

【No. 20：英語向けリメディアル教育の導入と実施内容等の検討】

- ・英語のリメディアル教育に関して、学生のために、きめ細かく丁寧に実施されている。

【No. 30：大学の個性と魅力のさらなる伸長につながる制度等の見直しの検討】

- ・大学の魅力づくりに関して、海外留学した場合でも4年で卒業できるための検討等、良く検討されており、更なる制度等の見直しを期待したい。

イ 改善すべき課題・取組の強化を期待する事項

【No. 10：平成32年度から始まる新テストの実施要綱等の検討】

- ・できるだけ早い時期に、入試情報を受験者に周知するため、時期等も明示すべきと考える。

【No. 15：研修日の運用や研究支援に関するアンケートの実施】

- ・サバティカル制度導入の要望に対して、検討に入るか否か補足する記述があるといい。

(3) 評価委員会の意見等

【No.5：GPAの活用による学習意欲の向上】

- ・「学生の継続的な学修意欲向上を図る」とされており、計画を上回って実施していると評価するのは、GPA値を基にした各学生への学修支援の充実（個別面談等）を図った後にすべきと考える。

第3 地域貢献、国際化

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (優) 計画どおり

イ 判断理由

項目別の評価を集計した結果、項目数13に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 項目別評価の集計結果 (No.31~43)

項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
13	0	13	0	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき優れた事項

【No. 34：地域の学習ニーズに応える各種講座の企画運営】

- ・地域に根付いた講座や教室が数多く実施されており、参加人数等も明示されている。

【No. 42：国際交流イベントの実施等】

- ・さまざまな機関との連携を図って種々の取り組みがなされ、学生の参加も多い。
- ・取組の回数等から積極的に取り組まれていると感じる。

イ 改善すべき課題・取組の強化を期待する事項

- ・特になし

(3) 評価委員会の意見等

【No. 41：英語による授業開講の検討】

- ・これからのグローバル化や他の大学の先進的な取組を見ると、「英語による授業の開講」の検討終了は、残念である。
- ・「英語による授業の開講」計画は終了となったが、短期研修に日本語初級コースを設置するなど、フォローされた。

第4 業務運営の改善及び効率化

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (優) 計画どおり

イ 判断理由

項目別の評価を集計した結果、項目数20に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 項目別評価の集計結果 (No.44~63)

項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
20	0	20	0	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき優れた事項

【No. 63：ハラスメント防止・対策委員及び相談員の資質向上】

- ・研修等、積極的に取り組まれている。

イ 改善すべき課題・取組の強化を期待する事項

- ・特になし

(3) 評価委員会の意見等

【No. 53：オリジナルグッズの導入是非についての結論】

- ・オリジナルグッズは見栄えは良いが、在庫管理や販売等難しい面がある。

【No. 55：研修等を通じた人権意識の高揚】

- ・関連する項目を含め、見えないハラスメントがあるという前提に立って、継続的に取り組んでいただきたい。

【No. 56：ハラスメントに関するアンケートによる状況把握と防止・対策】

- ・ハラスメント防止対策は地道に継続すべきもので、計画を上回るという評価はつけられないと考える。また逆に、計画を十分には実施できていない以下の評価があると問題である。

第5 財務内容の改善

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (優) 計画どおり

イ 判断理由

項目別の評価を集計した結果、項目数4に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している（Ⅲ評価）」と評価したことから、A評価（計画どおり）とする。

[参考] 項目別評価の集計結果 (No.64～67)

項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
4	0	4	0	0

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき優れた事項

・特になし

イ 改善すべき課題・取組の強化を期待する事項

・特になし

(3) 評価委員会の意見等

・特になし

第6 自己点検・評価及び情報公開・提供

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (優) 計画どおり

イ 判断理由

項目別の評価を集計した結果、項目数4に対し、その全てにおいて、「年度計画を上回って実施している（IV評価）」又は「年度計画を順調に実施している（III評価）」と評価したことから、A評価（計画どおり）とする。

〔参考〕項目別評価の集計結果（No.68～71）

項目数	評価結果			
	IV	III	II	I
4	1	3	0	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき優れた事項

- ・特になし

イ 改善すべき課題・取組の強化を期待する事項

- ・特になし

(3) 評価委員会の意見等

【No. 69：認証評価結果の公表と努力課題等への対応の検討】

- ・実際にCAP制を実施してから、年度計画を上回って実施したと評価すべきと考える。

第7 その他業務運営

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (優) 計画どおり

イ 判断理由

項目別の評価を集計した結果、項目数6に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している（Ⅲ評価）」と評価したことから、A評価（計画どおり）とする。

〔参考〕項目別評価の集計結果（No.72～77）

項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
6	0	6	0	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき優れた事項

・特になし

イ 改善すべき課題・取組の強化を期待する事項

・特になし

(3) 評価委員会の意見等

【No. 77：地域内の関係機関との防災・防犯に関する情報交換】

・防災・防犯に関しては、普段からの地域とのコミュニケーションが大事だと思う。

3 平成29年度業務実績評価に係る項目別評価結果総括表

対 象 区 分		平成29年度計画										
(大項目)	(中項目)	項目数	評価別内訳				評価別の構成割合(%)				計	平均値
			IV	III	II	I	IV	III	II	I		
(小項目)	報告No.											
第2 教育研究等の質の向上に関する目標		30	3	27	0	0	10%	90%	0%	0%	93	3.10
1 教育に関する目標		13	3	10	0	0	23%	77%	0%	0%	42	3.23
(1)教育内容、方法及び成果に関する目標	No. 1~5	5	3	2	0	0	60%	40%	0%	0%	18	3.60
(2)教育支援体制に関する目標	No. 6~9	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00
(3)学生の確保に関する目標	No. 10~13	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00
2 研究に関する目標	No. 14~15	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00
3 学生支援に関する目標	No. 16~29	14	0	14	0	0	0%	100%	0%	0%	42	3.00
4 大学改革に関する目標	No. 30	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00
第3 地域貢献、国際化に関する目標		13	0	13	0	0	0%	100%	0%	0%	39	3.00
1 地域貢献に関する目標	No. 31~35	5	0	5	0	0	0%	100%	0%	0%	15	3.00
2 国際化に関する目標	No. 36~43	8	0	8	0	0	0%	100%	0%	0%	24	3.00
第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標		20	0	20	0	0	0%	100%	0%	0%	60	3.00
1 組織運営の改善に関する目標	No. 44~47	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00
2 人事の適正化に関する目標	No. 48~52	5	0	5	0	0	0%	100%	0%	0%	15	3.00
3 広報活動の充実に関する目標	No. 53~54	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00
4 ハラスメント防止対策等に関する目標	No. 55~63	9	0	9	0	0	0%	100%	0%	0%	27	3.00
第5 財務内容の改善に関する目標		4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00
1 経営の効率化に関する目標	No. 64~65	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00
2 自己収入の増加に関する目標	No. 66~67	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00
第6 自己点検・評価及び情報公開・提供に関する目標	No. 68~71	4	1	3	0	0	25%	75%	0%	0%	13	3.25
第7 その他業務運営に関する重要目標		6	0	6	0	0	0%	100%	0%	0%	18	3.00
1 施設設備の整備・活用等に関する目標	No. 72~73	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00
2 安全管理に関する目標	No. 74~77	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00
合 計		77	4	73	0	0	5%	95%	0%	0%	235	3.05

平成29年度計画	
大項目別における評価	
評価IVIIIの割合	判定
100%	A

100%	A
-------------	----------

100%	A
-------------	----------

100%	A
-------------	----------

100%	A
-------------	----------

100%	A
-------------	----------

4 全体評価

(1) 総評

宮崎公立大学は、「高い識見と国際的な視野を持つ人間性豊かな人材を育成するとともに、広く地域に開かれた大学」という建学の理念のもと、教育研究や地域貢献の充実に積極的に取り組んできている。

このことから、本年度は、6年間の第2期中期目標期間の5年目となる平成29年度の業務実績について、その内容を点検したところである。その結果、評価委員会としては、全体的に、概ね計画を順調に実施できたものと評価したものである。

具体的には、教育研究等の質の向上に関するものとして、

①「集中講義による再履修制度や正課外の語学支援の運用等」について、英語・東アジア言語・教育情報の各教育プログラム科目において再履修講義を実施することにより、単位取得者が増加し、学習意欲の継続や留年抑止対策として一定の成果があがっていることを評価した。

②「FD研修会の継続実施と充実」について、教育の質の保証とそのシステムの充実について教職員の理解を深めることを目的に「学習成果の可視化」をテーマとした研修会を実施した上で、学習成果を可視化するツールであるルーブリックを作成し、次年度の運用開始につなげたことを評価した。

③「県内外に向けた入試情報等の広報の充実」について、出願者のニーズを捉えたインターネットによる出願受付を円滑に実施できていることや、大学のウェブサイトはもちろん、高校訪問、入試説明会、キャンパスガイド等、多様な手法で機に応じた広報や情報発信を積極的に行っていることを評価した。

④「英語向けリメディアル教育の導入と実施内容等の検討」について、推薦入学者には特に入学前から英語指導を行うとともに、入学後には、全1年生を対象に入学時・1年前期末・1年後期末と細かに区切りを設けて習熟度に応じた指導を行っている。また、1年生の修学状況を英語教員で共有し、事務局と連携して学生のフォローに生かすなど、学生のためのきめ細かな支援が丁寧に行われていることを評価した。

また、地域貢献、国際化に関するものとして

⑤「地域の学習ニーズに応える各種講座の企画運営」について、定期公開講座や語学講座、開放授業、自主講座等、地域に密着した既存の講座に加え、平成29年度からは宮崎ケーブルテレビを通じた講座の配信や、平成30年度の本格実施に向けた公民館講座の試行など、さらなる充実に向け積極的に取り組んでいることを評価した。

⑥「国際交流イベントの実施等」について、宮崎市国際交流協会、MAJET、みやざきグローバル人材育成協議会、国際教育文化交流協会など様々な機関と連携を図り、年間を通じて積極的に取り組んでいることに加え、学生の参加も多く、地域の国際交流に資していることを評価した。

以上、これまでの取組は評価できるものであるが、今回の業務実績評価においても、年度計画が抽象的な表現となっており、評価が難しい項目が複数見受けられた。この

課題については、平成29年度に実施した暫定評価でも指摘した内容であるため、今後の年度計画等の策定に生かせるよう、より進捗管理及び評価しやすい具体的な表現での記述を検討すること。

(2) 今後期待される事項

- ①平成32年度から始まる新しい入学試験制度の実施要綱等の検討については、できるだけ早い時期に、入試情報を受験者に周知することが望ましいため、作業内容と時期を明確にして準備を進められたい。
- ②英語圏の留学生の受入れ促進のために検討を進めていた「英語による授業の開講」については、より現実的な別の方策をとるべきとの結論に至り、検討を終了し、短期研修に日本語初級コースを設置するなどのフォローが行われているところであるが、その他の方策も含め、英語圏の留学生の受け入れに資する支援の充実を検討されたい。
- ③研修等を通じた人権意識の高揚等については、地道に継続していくことが重要であるため、常に高い意識を持って取り組まれたい。
- ④地域内の関係機関との防災・防犯に関しては、非常時に向け、普段から信頼関係を築いておくことが重要であるため、地域に開かれた大学として、引き続き地域の住民や関係機関とコミュニケーションを密にし、円滑な協力関係の維持に努められたい。